



平成19年3月期 第3四半期財務・業績の概況（連結）

平成19年2月7日

上場会社名 株式会社 な と り

（コード番号：2922 東証第一部）

（URL <http://www.natori.co.jp/>）

問合せ先 代表者 代表取締役社長 名取 三郎

（TEL：(03)-5390-8111）

責任者 経 理 部 長 名取 治

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用有無 : 有
 （法人税等の計上基準）
 法定実効税率をベースとした計算を行っております。
 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無
 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 無

2. 平成19年3月期第3四半期財務・業績の概況（平成18年4月1日～平成18年12月31日）

(1) 経営成績（連結）の進捗状況（金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期(当期)純利益
	百万円 %	百万円 %	百万円 %	百万円 %
19年3月期第3四半期	25,092 (3.1)	1,692 (43.8)	1,711 (39.5)	1,081 (56.2)
18年3月期第3四半期	24,338 (1.7)	1,176 (0.7)	1,227 (2.0)	692 (9.1)
(参考)18年3月期	31,215	908	963	541

	1株当たり四半期(当期)純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益
	円 銭	円 銭
19年3月期第3四半期	76 10	69 67
18年3月期第3四半期	49 78	44 62
(参考)18年3月期	38 23	34 38

(注)売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。

(2) 財政状態（連結）の変動状況（金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。）

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
19年3月期第3四半期	25,754	14,054	54.1	976 32
18年3月期第3四半期	25,964	12,951	49.9	930 49
(参考)18年3月期	24,294	13,027	53.6	916 49

【連結キャッシュ・フローの状況】

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
19年3月期第3四半期	2,231	97	1,945	956
18年3月期第3四半期	481	39	262	309
(参考)18年3月期	351	231	259	769

経営成績（連結）の進捗状況

当第3四半期におけるわが国経済は、企業収益の改善を背景に、設備投資の増加や雇用の拡大が進んでいるものの、米国経済の減速や国内での消費の伸び悩みを受け緩やかな回復基調で推移しております。

加工食品業界・小売業界では、業種業態を越えた企業間の販売競争が激化しております。また、食品衛生法改正による残留農薬のポジティブリスト制度導入などにより「食品の安心・安全」への消費者の関心はより高まっており、更なる品質管理の徹底と安全性が求められております。

このような状況のもと、なとりグループは「素材の風味を活かし、生産・流通・販売において温度帯にとらわれず、手軽に食べられ、様々な食シーンにマッチする、楽しさの演出に欠かせないおつまみをお客様にお届けします」をミッションとし、「おつまみ」のリーディングカンパニーとして顧客のニーズに合った「おつまみ」事業の維持・拡大に努めるとともに、お客様に信頼される商品を提供するために原料仕入から生産現場、店舗に並ぶまでの品質管理や衛生管理について管理体制の強化を進めております。

販売面では、当期より新しいマーケットの創造と開拓を目指し珍味売場向け5製品群（「水産」「畜肉」「酪農」「農産」「その他」）と珍味売場以外の4製品群（「小物菓子」「素材菓子」「スナック菓子」「チルド」）の「2カテゴリ9ジャンル」にきめ細かく分類し、各ジャンルにおいて、積極的な製品開発、販売戦略を進めております。

当第3四半期の新製品開発としては、珍味売場向けカテゴリーとして、濃厚なチーズにトマトの酸味とガーリックの風味を効かせたピザラとのコラボレーション商品第2弾「ピザラチーズ鱈ゲツツ味」、素材菓子製品で好評を頂いているボトルタイプの新製品として水産加工製品の「するめチップ」「ほたて貝ひも」などを市場へ投入する一方で、珍味売場以外のカテゴリーとして、水産系を主原料としたスナック菓子の追加アイテムとして「ベイクドチーズフィッシュバジル&ガーリック味」「おさかなのうす焼きスナック青のりしょう油味」、素材のおいしさや鮮度を重視したチルド製品として、「屋台風いかの姿焼き」「いかステーキピリ辛味」などを市場投入いたしました。当第3四半期の新製品売上高構成比は33.1%となっております。

これらの結果、当第3四半期の売上高は、前年同期比7億54百万円増（同3.1%増）の250億92百万円となりました。製品群別の売上高の状況は、以下の通りであります。

（単位：千円、端数切捨て）

区 分		当四半期累計 (平成19年3月期第3四半期)		前年同四半期累計 (平成18年3月期第3四半期)		前連結会計年度 (平成18年3月期)	
		金 額	前年同 四半期比	金 額	金 額		
珍 味 売 場	水産加工製品	13,619,909	2.0	13,900,545	17,670,847		
	畜肉加工製品	3,506,990	4.3	3,362,497	4,325,374		
	酪農加工製品	2,861,515	21.2	2,361,564	3,138,967		
	農産加工製品	772,754	3.8	744,315	986,989		
	その他製品	1,871,424	2.4	1,917,821	2,436,723		
	計	22,632,593	1.6	22,286,745	28,558,902		
珍 味 外 売 場	小物菓子製品	702,192	1.0	709,124	900,039		
	素材菓子製品	1,527,237	19.1	1,282,089	1,666,439		
	スナック菓子製品	71,817	143.4	29,506	35,001		
	チルド製品	159,027	409.9	31,187	55,499		
	計	2,460,274	19.9	2,051,907	2,656,980		
合 計		25,092,867	3.1	24,338,652	31,215,882		

（注）上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

珍味売場では、「乾き珍味」市場の成熟化を受け、水産加工製品（特にいか製品）が減収となりましたが、水産加工製品以外の3製品群はそろって増収となりました。特にチーズ鱈の新製品が大きく寄与した酪農加工製品の増収が目立っております。珍味外売場では、素材菓子製品、スナック菓子製品、チルド製品は増収となりました。一方で小物菓子製品については、一般的に駄菓子といわれる特殊なマーケットでもあり、新製品の投入による十分な成果が上がり減収となりました。

収益面につきましては、新製品の市場投入による売上増加及び既存製品規格の見直し等により、売上総利益が前年同期比4億68百万円増（同5.9%増）の83億52百万円となりました。

販売費及び一般管理費は引き続きローコストオペレーションによる全社コストの削減に努めた結果、前年同期比47百万円減（同0.7%減）の66億59百万円となり、営業利益16億92百万円（同43.8%増）、経常利益17億11百万円（同39.5%増）、持分法非適用非連結子会社でありました王子食品産業（協）が平成18年5月に解散決議を行ったことを受け、関係会社残余財産分配金3億9百万円の特別利益があり、第3四半期純利益は10億81百万円（同56.2%増）と前年同期比増益となりました。

また、当社グループはコーポレート・ガバナンスのより良い体制づくりのため、社外監査役の増員を含め監査役、及び経営監査部において、内部統制システムの強化を引き続き進めております。

財政状態（連結）の変動状況

当期の連結総資産は257億54百万円（前期比2億9百万円減）となりました。資産の部では主として、たな卸資産が減少しております。負債の部では長期・短期借入金が増加、純資産の部では前年同期と比較して、アルパイン円貨建転換社債型新株予約権付社債の新株予約権行使により資本金・資本剰余金がそれぞれ増加、利益剰余金も前期比7億80百万円増加した結果、純資産合計は140億54百万円となり、自己資本比率は前期比4.2ポイント増の54.1%となりました。

なお、当社グループは、前期より「固定資産の減損に係る会計基準」（「固定資産の減損に係る会計基準の設定に関する意見書」（企業会計審議会 平成14年8月9日））及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準委員会 平成15年10月31日 企業会計基準適用指針第6号）を適用しております。これによる損益に与える影響はありません。

連結キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、前期比27億12百万円増加し、22億31百万円の収入となりました。主な要因として、税金等調整前第3四半期純利益が増加したこと、たな卸資産が減少したこと及び法人税等の還付によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、前期比58百万円減少し、97百万円の支出となりました。当第3四半期には、関係会社残余財産分配金として3億9百万円の収入がありましたが、賃貸住宅建設代金第二回目支払等有形固定資産の取得として2億43百万円を支払っております。

財務活動によるキャッシュ・フローは、前期比16億83百万円減少し、19億45百万円の支出となりました。主な要因として、短期借入金が増加したことによりです。

以上の結果、現金及び現金同等物は、前期比6億47百万円増加し、9億56百万円となりました。

なお、当企業グループのキャッシュ・フローの状況は以下の通りであります。

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
19年3月期第3四半期	2,231	97	1,945	956
18年3月期第3四半期	481	39	262	309
前期比増減	2,712	58	1,683	647

3. 平成19年3月期の連結業績予想(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
通 期	32,000	1,150	630

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 44円35銭

(注) 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

業績予想

当期の業績見通しにつきましては、以下の諸施策により当初計画通りの達成を目指してまいります。

販売面では、より原料や製法にこだわった“プレミアムおつまみ”の充実に向け、付加価値の高い製品開発に注力してまいります。さらにボトルタイプの新製品として水産加工製品の「ピリ辛まるごと焼きするめ」「梅干昆布」を拡充するとともに既存製品においても、売上が好調な酪農加工製品、畜肉加工製品の更なる拡販を推進してまいります。

珍味外売場のカテゴリー拡大につきましては、野菜系素材菓子として、美しい色合いでスイーツとして人気の高い「紫いも」を使用した素材菓子製品「ひとくち紫いも」、苺ピューレを使用し素材本来のおいしさと甘酸っぱさを再現した春の代表的なフルーツを素材とする「ぎゅっとねり苺」等を発売し拡販に努めてまいります。今後につきましても、食品総合ラボラトリーを中核にグループ総力を挙げて顧客志向に基づいた新製品開発に取り組んでまいります。

収益面につきましても、当初の計画通り達成する見込みであります。

引き続き原料調達グローバル化を推進し、在庫の適正化、ローコストオペレーションによる販売費及び一般管理費のコストダウン、高付加価値商品の拡販に努め、一層の利益率改善を図ってまいります。また、関係会社残余財産分配金を特別利益に計上しておりますが、平成18年11月24日公表の19年3月期の連結業績予想に変更はございません。

〔添付資料〕

1. (要約) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円、%)

科 目	当四半期 (平成19年3月期 第3四半期末)	前年同四半期 (平成18年3月期 第3四半期末)	増 減		(参考) 平成18年3月期
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
(資産の部)					
流動資産					
1. 現金及び預金	1,383,503	1,054,029	329,473	31.26	1,102,179
2. 受取手形及び売掛金	6,682,188	6,532,776	149,412	2.29	4,697,990
3. たな卸資産	4,208,991	4,915,934	706,942	14.38	4,778,473
4. その他	524,770	381,386	143,383	37.60	544,051
流動資産合計	12,799,452	12,884,126	84,673	0.66	11,122,695
固定資産					
1. 有形固定資産	11,385,593	11,468,220	82,627	0.72	11,505,825
2. 無形固定資産	124,814	125,506	691	0.55	122,929
3. 投資その他の資産	1,444,891	1,486,331	41,439	2.79	1,542,824
固定資産合計	12,955,299	13,080,057	124,758	0.95	13,171,579
資産合計	25,754,752	25,964,184	209,432	0.81	24,294,275
(負債の部)					
流動負債					
1. 支払手形及び買掛金	4,474,973	4,791,435	316,461	6.60	2,854,303
2. 短期借入金	2,143,000	3,620,596	1,477,596	40.81	3,796,000
3. 一年以内に返済予定の 長期借入金	128,868	214,128	85,260	39.82	193,091
4. 新株予約権付社債	943,000	-	943,000	-	-
5. 未払法人税等	884,710	281,894	602,816	213.84	31,261
6. その他	1,348,384	1,157,526	190,857	16.49	1,377,905
流動負債合計	9,922,936	10,065,580	142,643	1.42	8,252,560
固定負債					
1. 新株予約権付社債	-	1,211,000	1,211,000	-	994,000
2. 長期借入金	850,831	979,699	128,868	13.15	938,632
3. その他	926,400	630,932	295,468	46.83	958,771
固定負債合計	1,777,231	2,821,631	1,044,399	37.01	2,891,403
負債合計	11,700,168	12,887,212	1,187,043	9.21	11,143,964
(少数株主持分)					
少数株主持分	-	125,895	-	-	122,340
(資本の部)					
資本金	-	1,369,625	-	-	1,478,125
資本剰余金	-	1,685,435	-	-	1,793,935
利益剰余金	-	9,711,336	-	-	9,560,149
その他有価証券評価差額金	-	187,137	-	-	198,596
自己株式	-	2,458	-	-	2,835
資本合計	-	12,951,076	-	-	13,027,970
負債、少数株主持分及び資本合計	-	25,964,184	-	-	24,294,275
(純資産の部)					
株主資本					
1. 資本金	1,503,625	-	-	-	-
2. 資本剰余金	1,819,438	-	-	-	-
3. 利益剰余金	10,492,290	-	-	-	-
4. 自己株式	3,145	-	-	-	-
株主資本合計	13,812,209	-	-	-	-
評価・換算差額等					
その他有価証券評価差額金	124,020	-	-	-	-
評価・換算差額等合計	124,020	-	-	-	-
少数株主持分	118,354	-	-	-	-
純資産合計	14,054,583	-	-	-	-
負債及び純資産合計	25,754,752	-	-	-	-

2. (要約) 四半期連結損益計算書

(単位：千円、%)

科 目	当四半期 (平成19年3月期 第3四半期)	前年同四半期 (平成18年3月期 第3四半期)	増 減		(参考) 平成18年3月期
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
売上高	25,092,867	24,338,652	754,214	3.10	31,215,882
売上原価	16,740,611	16,454,406	286,205	1.74	21,238,525
売上総利益	8,352,256	7,884,246	468,009	5.94	9,977,357
販売費及び一般管理費	6,659,611	6,707,402	47,790	0.71	9,068,643
営業利益	1,692,644	1,176,844	515,800	43.83	908,713
営業外収益					
1. 受 取 賃 貸 料	18,291	35,312	17,020	48.20	44,747
2. そ の 他	42,221	69,049	26,828	38.85	80,847
営業外収益合計	60,513	104,361	43,848	42.02	125,595
営業外費用					
1. 支 払 利 息	26,956	33,074	6,118	18.50	43,274
2. 賃 貸 原 価	12,842	20,371	7,529	36.96	26,105
3. そ の 他	1,456	618	838	135.56	1,751
営業外費用合計	41,254	54,064	12,809	23.69	71,132
経常利益	1,711,903	1,227,141	484,761	39.50	963,176
特別利益					
1. 固定資産売却益	9	-	9	-	-
2. 関係会社残余財産分配金	309,424	-	309,424	-	-
3. 自主回収受取損害保険金	41,882	-	41,882	-	-
4. 投資有価証券売却益	-	-	-	-	2,733
5. 地域雇用奨励金	-	3,631	3,631	-	8,631
6. 企業立地助成金	-	30,266	30,266	-	30,266
7. 受取工事補償金	-	-	-	-	40,215
8. 貸倒引当金戻入益	4,746	-	4,746	-	-
特別利益合計	356,061	33,961	322,100	948.43	81,846
特別損失					
1. 固定資産除却損	310	1,062	752	70.80	2,046
2. たな卸資産整理損	89,559	-	89,559	-	-
3. 自主回収関連損失	-	9,929	9,929	-	54,001
4. 投資有価証券評価損	-	-	-	-	6,754
5. 貸倒引当金繰入額	-	-	-	-	950
6. 関係会社整理損	-	2,609	2,609	-	2,609
特別損失合計	89,869	13,601	76,267	560.73	66,362
税金等調整前四半期(当期)純利益	1,978,095	1,247,501	730,594	58.56	978,660
税金費用	889,873	551,364	338,509	61.39	437,266
少数株主利益又は少数株主損失()	6,313	3,285	3,028	92.18	270
四半期(当期)純利益	1,081,908	692,852	389,056	56.15	541,664

3. (要約) 四半期連結株主資本等変動計算書

当四半期 (自 平成18年4月1日 至 平成18年12月31日)

(単位：千円)

	株主資本					評価・換算差額等	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金		
平成18年3月31日残高	1,478,125	1,793,935	9,560,149	2,835	12,829,374	198,596	122,340	13,150,311
当四半期の変動額								
新株発行	25,500	25,500	-	-	51,000	-	-	51,000
剰余金の配当	-	-	142,066	-	142,066	-	-	142,066
役員賞与	-	-	7,700	-	7,700	-	-	7,700
四半期純利益	-	-	1,081,908	-	1,081,908	-	-	1,081,908
自己株式の売却	-	2	-	15	18	-	-	18
自己株式の取得	-	-	-	325	325	-	-	325
株主資本以外の項目 の当四半期の変動額 (純額)	-	-	-	-	-	74,575	3,986	78,561
当四半期の変動額合計	25,500	25,502	932,141	309	982,834	74,575	3,986	904,272
平成18年12月31日残高	1,503,625	1,819,438	10,492,290	3,145	13,812,209	124,020	118,354	14,054,583

4. 四半期連結剰余金計算書

(単位：千円)

区 分	前年同四半期 (平成18年3月期 第3四半期)	(参 考) 平成18年3月期
	金 額	金 額
(資本剰余金の部)		
資本剰余金期首残高	1,685,435	1,685,435
資本剰余金増加高	-	108,500
社債の転換による新株の発行	-	108,500
資本剰余金四半期末(期末)残高	1,685,435	1,793,935
(利益剰余金の部)		
利益剰余金期首残高	9,175,844	9,175,844
利益剰余金増加高	692,852	541,664
四半期(当期)純利益	692,852	541,664
利益剰余金減少高	157,359	157,359
1. 配 当 金	139,190	139,190
2. 取締役賞与	8,225	8,225
3. 連結子会社除外に伴う減少額	9,944	9,944
利益剰余金四半期末(期末)残高	9,711,336	9,560,149

5. (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当四半期 (平成19年3月期 第3四半期)	前年同四半期 (平成18年3月期 第3四半期)	(参考) 平成18年3月期
区 分	金 額	金 額	金 額
・ 営業活動によるキャッシュ・フロー			
1. 税金等調整前四半期(当期)純利益	1,978,095	1,247,501	978,660
2. 減価償却費	386,390	447,002	597,535
3. 役員退職慰労引当金の増減額	22,008	778,813	767,888
4. 関係会社整理損失引当金の減少額	-	50,000	50,000
5. 受取利息及び受取配当金	9,769	8,394	33,643
6. 支払利息	26,956	33,074	43,274
7. 関係会社残余財産分配金	309,424	-	-
8. 自主回収損害受取保険金	41,882	-	-
9. 売上債権の増加額	1,984,878	2,209,911	371,560
10. たな卸資産の増減額	545,418	616,389	458,960
11. 仕入債務の増加額	1,303,388	2,175,665	367,420
12. 未払消費税等の増減額	146,065	49,271	75,458
13. 役員賞与の支払額	7,700	8,225	8,225
14. その他	30,071	18,958	98,684
小 計	2,024,597	201,197	319,839
15. 利息及び配当金の受取額	9,722	8,417	33,646
16. 利息の支払額	27,006	30,745	42,762
17. 損害保険金の受取額	41,882	-	-
18. 法人税等の支払額	36,424	660,679	662,216
19. 法人税等の還付額	218,230	-	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,231,002	481,809	351,492
・ 投資活動によるキャッシュ・フロー			
1. 有形固定資産の取得による支出	243,804	129,125	319,883
2. 有形固定資産の売却による収入	188	34,730	34,957
3. 投資有価証券の取得による支出	22,502	22,102	28,446
4. 投資有価証券の売却による収入	-	-	5,063
5. 関係会社株式の取得による支出	10,000	-	24,699
6. 子会社株式の取得による支出	9,300	-	-
7. 連結範囲の変更を伴う子会社株式の 取得による収支	-	9,552	9,552
8. 関係会社残余財産分配による収入	309,424	-	-
9. その他	121,868	86,584	110,914
投資活動によるキャッシュ・フロー	97,863	39,464	231,646
・ 財務活動によるキャッシュ・フロー			
1. 短期借入金の増減額	1,653,000	231,000	818,000
2. 長期借入金の減少額	152,024	355,604	417,708
3. 親会社による配当金の支払額	140,092	136,238	139,145
4. 少数株主への配当金の支払額	392	917	917
5. その他	307	431	808
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,945,816	262,191	259,419
・ 現金及び現金同等物の増減額	187,322	783,465	323,719
・ 現金及び現金同等物期首残高	769,174	1,092,893	1,092,893
・ 現金及び現金同等物第3四半期末 (期末)残高	956,496	309,427	769,174

6. 四半期財務情報作成のための基本となる事項

当社は、中間（連結）財務諸表等の作成基準をベースとしつつ、以下のとおり投資者等の利害関係者の判断を大きく誤らせない範囲で一定の簡便な手続を採用しております。

（法人税等の計上基準）

法定実効税率を基礎として実際の税負担額を試算のうえ、税金費用として計上しております。

7. セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

当社及び連結子会社は、主に食品加工品事業を主な事業内容としており、当第3四半期における当該事業区分の連結売上高及び営業利益は、いずれも全セグメントに占める割合が90%超であるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

〔所在地別セグメント情報〕

当第3四半期において本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

8. その他

該当事項はありません。